

大槻玄沢「大槻玄沢自筆書簡」

〔寛政9（1797）年2

月15日〕

正月廿一日出の御細簡、一兩日

已前南條生より御伝致、不淺

捧読、如諭、春陽奉

御同慶候、挙家益御

清寧被成御重齡、奉

遥賀候、随て拙家無異

加歳仕候、御披念被下度候、

扱去臘祝融の変被及

御聞、縷々御尋被下、千万辱

存候、誠に近火大鳴動仕候、

乍去手許に指置候蘭籍

並草稿の書篋、薬籠

等は持退申候、自余は尽く

為烏有候、扱々失却仕候、

御憐察可被下候、当時は仮

住居不手都合の事斗に御坐候、

春中卜居の積にて、日々

俗冗消日申候、貴地大兄御

誘引を以、西学益盛大、

諸君御専精にて、追々御

新訳も御座候、御羨敷、為

天下後世生民大幸仕候、

追々拝見の事奉希候、

此方何れも不相捨置候得共、

種々の故障にてはか／＼しからず

遺憾存候、槐園、稻村

安岡益盛業日新

御座候、杉田不相替繁務、

蘭化翁依旧矍鑠

勉礪にて御座候、ド、ニユース

蘭山へ被遣、相分候分貼紙

和漢名記し参候よし、先右

薬名目録御社中へ被仰付、為御写

一本拝受仕度奉願候、京師、

信陽よりも奇書御手に入候よし、

追々奇説新論奉伺度候、

何も俗冗、然は草々貴報迄に

如此御座候、頓首拝復、

大槻玄沢

茂（花押）

仲春望

江馬春齡様

左右

尚々吉川生、林順安等へ御

出立の節宜御致意奉頼候、以上、